

令和2年度 大田区立田園調布中学校 自己評価 報告書

令和3年3月1日

○ 本校の概要

閑静な落ち着いた住宅街に位置し、教育環境には恵まれている。保護者の教育に対する意識も高く、関心や期待も高い。また、学校の教育活動に協力的で、様々な場面で理解と協力を得られている。生徒も素直な生徒が多く学習意欲も高い。音楽、スポーツ、語学などで優れた才能を持つ生徒もおり、学校内の活動で能力を発揮している。基本的な生活習慣や身だしなみ、規範意識などが身につけている生徒が多い。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄			
								評価人数	コメント		
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	意識調査 「学校では、いじめを防止し一人一人の人権を大切にしている。」の問いに対する肯定的評価の割合	4: 90%以上	「学校では、いじめを防止し一人一人の人権を大切にしている。」の問いに対する肯定的評価の割合が85.2%、「職場体験、進路学習など将来のことや進学のことを指導してくれる」に対しては、89.2%であった。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、既存の教育活動の実施が困難となり、図らずも新しい生活様式が求められるようになった。来年度、感染症が急速に終息するとは限らないため、柔軟な教育計画と対面以外のコミュニケーションの方法を検討していく。	A 7	・朝の校門でのあいさつは声を出して行えるようになると思う。 ・従来の職場体験が実施できない中、出前職場授業という新しい方式でコロナ時代のあり方を実現した。 ・コロナ禍にあっても職業体験に変わる講演やゲストティーチャーによる授業を行っているのすごいと思った。 ・地域で中学生を見かけたときにはあいさつをするようにしているが、必ずあいさつが返ってくる。先生方の指導のたまものだと思っている。 ・生徒数が少なく、先生方がよく見てくださっているおかげでいじめの話聞かないのは素晴らしいと思っています。コロナ対策で職業体験などは今後も難しくそうですがリモートなど新たな対応が必要となってくるのではないかと思います。		
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	「職場体験、進路学習など将来のことや進学のことを指導してくれる。」項目の肯定的回答の割合	3: 80%以上				B 1	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	「職場体験、進路学習など将来のことや進学のことを指導してくれる。」項目の肯定的回答の割合	2: 70%以上					C 0
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	「職場体験、進路学習など将来のことや進学のことを指導してくれる。」項目の肯定的回答の割合	1: 70%未満					
体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3									
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	意識調査 「授業はわかりやすい。」	4: 90%以上	「授業はわかりやすい」の問いに対する肯定的評価の割合が89.3%、「真面目に授業に取り組んでいる」に対しては、91.2%であった。今年度、感染症による学級閉鎖中にコンピュータによる学習を試みた。来年度も対面での授業が急遽、困難になる可能性があるため、引き続きICTの活用による学習について研究を進めていく。	A 6	・オンライン講演会の視聴も多く、ICTが進んでいると思った。 ・先生方も一生懸命、授業について考えて下さっていると思いますが、塾に依存している生徒さんも多く、高校受験を考えると仕方ないのかなとも思っています。しかし、授業中ではまじめに取り組んでいる生徒さんが多いことはいつも感じます。		
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	「まじめに授業に取り組んでいる」項目の肯定的回答の割合	3: 80%以上				B 1	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	「まじめに授業に取り組んでいる」項目の肯定的回答の割合	2: 70%以上					C 1
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	「まじめに授業に取り組んでいる」項目の肯定的回答の割合	1: 70%未満					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	意識調査 「規律を守り、真面目に学校生活を送っている。」	4: 90%以上	「規律を守り、真面目に学校生活を送っている」の問いに対する肯定的評価の割合が88.2%、「先生は、悩みや相談に対していねいに聞いてくれる」に対しては、87.4%であった。豊かな心の育成に関係して今年度、大学の先生をお招きして全学級で生命尊重の授業を実施した。また、感染者や医療従事者への偏見や差別意識の解消に向けての指導にも取り組んだ。本校で研究している「考える道徳 議論する道徳」の実践とも関連づけ、今後も指導を進めていく。	A 7	・このコロナ禍の状況にあって、先生方の企画等を評価したい。 ・多感な年代だけに心の問題は大きい。特に新型コロナウイルスで家庭環境が激変しているところも多くある可能性があり、より細心の注意を払っていただきたい。 ・「生命の尊重」の学習は常に取り組んでいただきたい。 ・服装の乱れなどもなく、安心して生徒たちを見る事ができます。 ・コロナ感染の際も地域が動揺した様子はありませんでした。生徒が学校を信頼していることの証だと思いました。 ・先生方は生徒達のことをよく見てくださっていますし、何かあった時にすぐに家庭にも連絡を下されるのは学校の誠実さを感じます。また、何かの問題があった時には双方の言い分をきちんと聞いて下さるなど丁寧に対応して下さいと思います。		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	「先生は、悩みや相談に対して丁寧な対応ができた」と全教員が回答した。	3: 80%以上				B 1	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	「先生は、悩みや相談に対して丁寧な対応ができた」と全教員が回答した。	2: 70%以上					C 0
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	「先生は、悩みや相談に対して丁寧な対応ができた」と全教員が回答した。	1: 70%未満					
問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおむね会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4									
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	意識調査 「朝食をとり、起床や就寝時間を守るなど規則正しい生活を送っている。」	4: 80%以上	「朝食をとり、起床や就寝時間を守るなど規則正しい生活を送っている」の問いに対する肯定的評価の割合が80.4%、「学校は行事や委員会活動、部活動などを通して、生徒の個性や能力を伸ばすよう指導している」の問いに対しては、85.7%であった。体育的行事が実施できず、また、部活動も十分にできない状況の中、授業での限られた機会を活用して体力の向上に努めていた。感染防止の一環として「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みを始め、規則正しい生活を送るための指導や印刷物等の配布を進め、生徒の意識の向上に努める。	A 5	・休校期間中も学校だよりを出し続け、規則正しい生活を促していると思います。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」については保健室等からも指導して下さいましたが保護者へのアプローチがもう少しあってもよいかもしれません。コロナ禍において委員会・部活動等制限がありましたので今年度は評価するのがとても難しいと思いました。		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	「学校は、行事や委員会活動、部活動などを通して、生徒の個性や能力を伸ばすよう指導している。」項目の肯定的回答の割合	3: 60%以上				B 3	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	「学校は、行事や委員会活動、部活動などを通して、生徒の個性や能力を伸ばすよう指導している。」項目の肯定的回答の割合	2: 50%以上					C 0
		部活動への参加を奨励し、継続的に体を動かす態度を養う。	4:部活動参加率が90%以上であった。 3:部活動参加率が80%以上であった。 2:部活動参加率が70%以上であった。 1:部活動参加率が70%未満であった。	3	「学校は、行事や委員会活動、部活動などを通して、生徒の個性や能力を伸ばすよう指導している。」項目の肯定的回答の割合	1: 50%未満					
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	意識調査 「生徒の興味・関心をもったり、やる気が出るような授業の工夫をもちたり、やる気が出るような授業の工夫をしている。」	4: 80%以上	「生徒が興味・関心をもったり、やる気が出るような授業の工夫をもちたり、やる気が出るような授業の工夫をしている」の問いに対する肯定的評価の割合は、84.9%であった。スクールカウンセラーや教育相談員、外部の機関等と連携して不安や悩みのある生徒や支援が必要な生徒に寄り添うことができた。教員の指導力の向上については、全教職員で「特別の教科道徳」の授業実践を進め、11月に研究発表会を実施し、2年間にわたる研究成果をまとめることができた。	A 5	・教育現場の良好な環境作りを今後もお願いしたい。 ・スマホ、ゲーム等の影響は深刻だと思えます。障害について多くの研究がなされていますが、子どもたちに伝える機会をもってください。 ・吹奏楽部の人数が増え、盛り上がりつつあり、うれしく思っています。 ・公立中学校なのでできることの制限はあると思うのですが、授業の工夫はもう少し求めたいところではあります。スクールカウンセラーさんへは相談する保護者もいますし、先生方も生徒の話をよく聞いて下さるので必要な支援が受けられると思います。		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施し、L.O.J.Tを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	「生徒の興味・関心をもったり、やる気が出るような授業の工夫をしている。」項目の肯定的回答の割合	3: 60%以上				B 3	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	「生徒の興味・関心をもったり、やる気が出るような授業の工夫をしている。」項目の肯定的回答の割合	2: 50%以上					C 0
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	「生徒の興味・関心をもったり、やる気が出るような授業の工夫をしている。」項目の肯定的回答の割合	1: 50%未満					
プラン6 なつて学校も家庭も一緒に育める体制づくり	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	意識調査 「保護者や学年懇談会、学校・学年だよりなどを通して、教育方針や学校の情報をわかりやすく伝える。」	4: 90%以上	「保護者や学年懇談会、学校・学年だよりなどを通して、教育方針や学校の情報をわかりやすく伝える」の問いに対する肯定的評価の割合が、94.1%、「学校行事、学校公開週間、授業参観など学校を公開する機会を設けている」の問いに対しては、95.5%、「学校は地域の方々に協力している」の問いに対しては、88.5%であった。感染拡大の影響から、例年PTAや地域の方々にご協力をいただいている田園中フェスタや防災訓練等を実施することができず、また、年明けに企画していた青少年対主催の講演会もやむを得ず規模を縮小した。しかし、読み聞かせやバレーの導入等、多くの方々のご協力もいただいた。来年度以降もPTAや地域の方々のご協力をいただき、地域に誇れる生徒を育てていく。	A 8	・今年度は何もできなかったが、今後も高齢者との交流や地域清掃について協力していきたい。 ・学校、家庭、地域が一体となって取り組んできた田園調布フェスティバルが開催できなかったことは残念ですが、可能な形で取り組みをさせていただくことを評価します。 ・コロナ禍にあっても様々な取り組みにチャレンジしていることで地域連携ができていると思います。 ・感染予防対策をしながら学校公開や進路説明会を行ってくださったことを感謝しています。また、毎週、学年だよりを発行して下さい。次週の予定だけでなく生徒達の様子を細かく記載して下さい。毎週、先生方の持ち回りとはいえ発行するのは毎週の折れる作業だと思うのですが、保護者からは感謝の声がよく聞かれます。来年度もコロナの影響は続くと思いますが、安全安心を最優先にしたいです。		
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	「保護者や学年懇談会、学校・学年だよりなどを通して、教育方針や学校の情報をわかりやすく伝える。」項目の肯定的回答の割合	3: 80%以上				B 0	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	「保護者や学年懇談会、学校・学年だよりなどを通して、教育方針や学校の情報をわかりやすく伝える。」項目の肯定的回答の割合	2: 70%以上					C 0

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。